令和３年１０月２１日
岐阜県保健環境研究所

岐阜県における 2020／21 シーズンのインフルエンザの流行について

岐阜県内の 2020/21 シーズン（以下「今シーズン」という。）におけるインフルエンザ流行状況について、感染症発生動向調査、岐阜県リアルタイム感染症サーベイランス、学校サーベイランス等各種サーベイランスにより得られたデータを解析し、取りまとめました。

なお、各シーズンの期間は第 36 週～翌年第 35 週としています。

【各サーベイランス結果の概要】

1　感染症発生動向調査
今シーズン、岐阜県における定点当たりの週別患者報告数が、流行開始の目安とされる 1 人を超えることはありませんでした。このような状況は現在の体制でデータ収集を開始した 2005/06 シーズン以降で初めてのことでした。またこのような状況は近隣県及び全国でも同様であり、今シーズン各都道府県における定点当たりの患者報告数はいずれも 1 人以下でした。

2　岐阜県リアルタイム感染症サーベイランス
感染症発生動向調査と同様、今シーズン、岐阜県全体での 1 医療機関当たりの週別患者報告数が 1 人を超えることはありませんでした。患者報告総数は 351 人で、本システムが稼働を開始した 2009/10 シーズン以降で最も少ない数となりました。このうち迅速診断キットにより、A 型もしくは B 型が判明したのは 45 人であり、全体の 15%以下となりました。

3　学校サーベイランス
今シーズン、小中高校・特別支援学校でインフルエンザにより出席停止となった児童生徒数は 18 名であり、全児童生徒数の 0.1%以下となりました。また、インフルエンザによる学級閉鎖等の休業措置を行った学校はありませんでした。全体の出席停止者数、休業学校数はともに 2009 年に調査を開始して以降で最も少ない数となりました。

4　ウイルスサーベイランス
今シーズン、インフルエンザウイルスの検出報告はありませんでした。

5　入院サーベイランス
今シーズンの患者報告数は 5 名であり、2011/12 シーズンに本サーベイランスを開始して以降で最も少ない数となりました。

１　感染症発生動向調査

感染症発生動向調査とは、感染症法に基づき国及び都道府県等の自治体が、感染症の発生状況やその推移を継続的に監視し、データを収集、分析及び評価することで、その予防と管理を図ることを目的としています。インフルエンザについては、全国約 5,000 か所、岐阜県内では 87 か所の医療機関を定点とし、そこから週ごとにインフルエンザ患者数の報告を求め、発生動向調査を行っています。

今シーズン、県内の週別インフルエンザ患者報告数は、流行開始の目安とされる定点当たり 1 人を上回ることはなく、実質的にインフルエンザの流行はみられませんでした（図 1、表 1）。このような状況は、現体制でデータ収集を開始した 2005/06 シーズン以降初めてのことです。

またこうした状況は、近隣県（愛知県、三重県、長野県、富山県、石川県、福井県、滋賀県）でも同様であり、今シーズン近隣各県における定点当たりの患者報告数はいずれも 1 人以下でした（図 2）。さらに全国的にも同様の状況であり、各都道府県における定点当たりの患者報告数はいずれも 1 人以下でした。

これらのことから、今シーズンにおけるインフルエンザの流行は全国的にみられず、その発生動向は特異なものでした。こうした特異な状況が発生したことについて、いくつかの理由が考えられますが、なかでも新型コロナウイルス感染症への感染予防対策の効果が大きいと考えられています。インフルエンザは、新型コロナウイルス感染症と同様に、感染している人のくしゃみや咳などによる飛沫感染、あるいはウイルスの付いた手指などを介した接触感染によってうつります。そのため密閉・密集・密接（３密）の回避や手洗いの励行などの感染予防対策は、インフルエンザなど、飛沫感染や接触感染する他の感染症にも有効と考えられるからです。

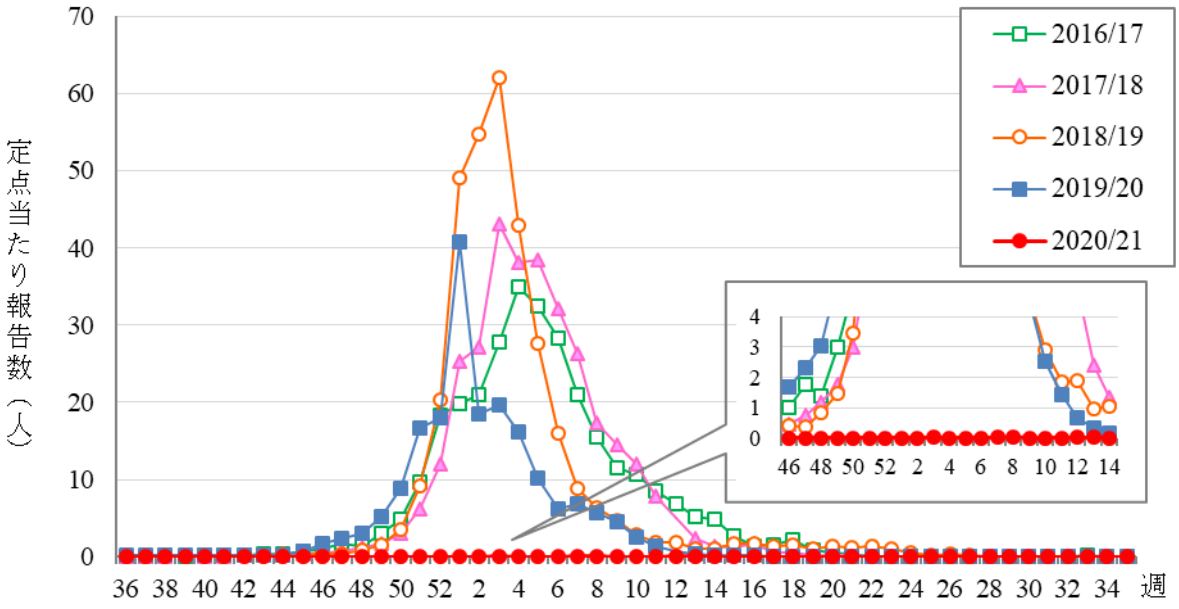

図 1　感染症発生動向調査 インフルエンザ患者報告数週別推移（岐阜県・過去 5 シーズン）

表１　感染症発生動向調査　シーズンごとの状況（過去 10 シーズン）

シーズン	定点当たり1.0人を超えた最初の週（A）	定点当たり1.0人を超えた最後の週（B）	流行期間（B－A）	定点当たり報告数	
				ピーク時	期間内計
2011/12	第48週　(11/28～12/4)	第18週　(4/30～5/6)	23週	49.9	319.1
2012/13	第49週　(12/3～12/9)	第22週　(5/27～6/2)	26週	31.0	295.8
2013/14	第50週　(12/9～12/15)	第20週　(5/12～5/18)	23週	31.5	304.5
2014/15	第49週　(12/1～12/7)	第19週　(5/4～5/10)	23週	42.2	269.3
2015/16	第53週　(12/28～1/3)	第18週　(5/2～5/8)	19週	47.0	358.5
2016/17	第46週　(11/14～11/20)	第18週　(5/1～5/7)	25週	35.0	296.3
2017/18	第48週　(11/27～12/3)	第16週　(4/16～4/22)	21週	43.1	317.9
2018/19	第49週　(12/3～12/9)	第22週　(5/27～6/2)*	26週	62.1	326.7
2019/20	第46週　(11/11～11/17)	第11週　(3/9～3/15)	17週	40.8	188
2020/21	**–　-**	**–　-**	**-**	**0.05**	**-**

＊ 第13週に一旦定点当たり1.0人を下回った後、第14週に再び定点当たり1.0人を超えた。

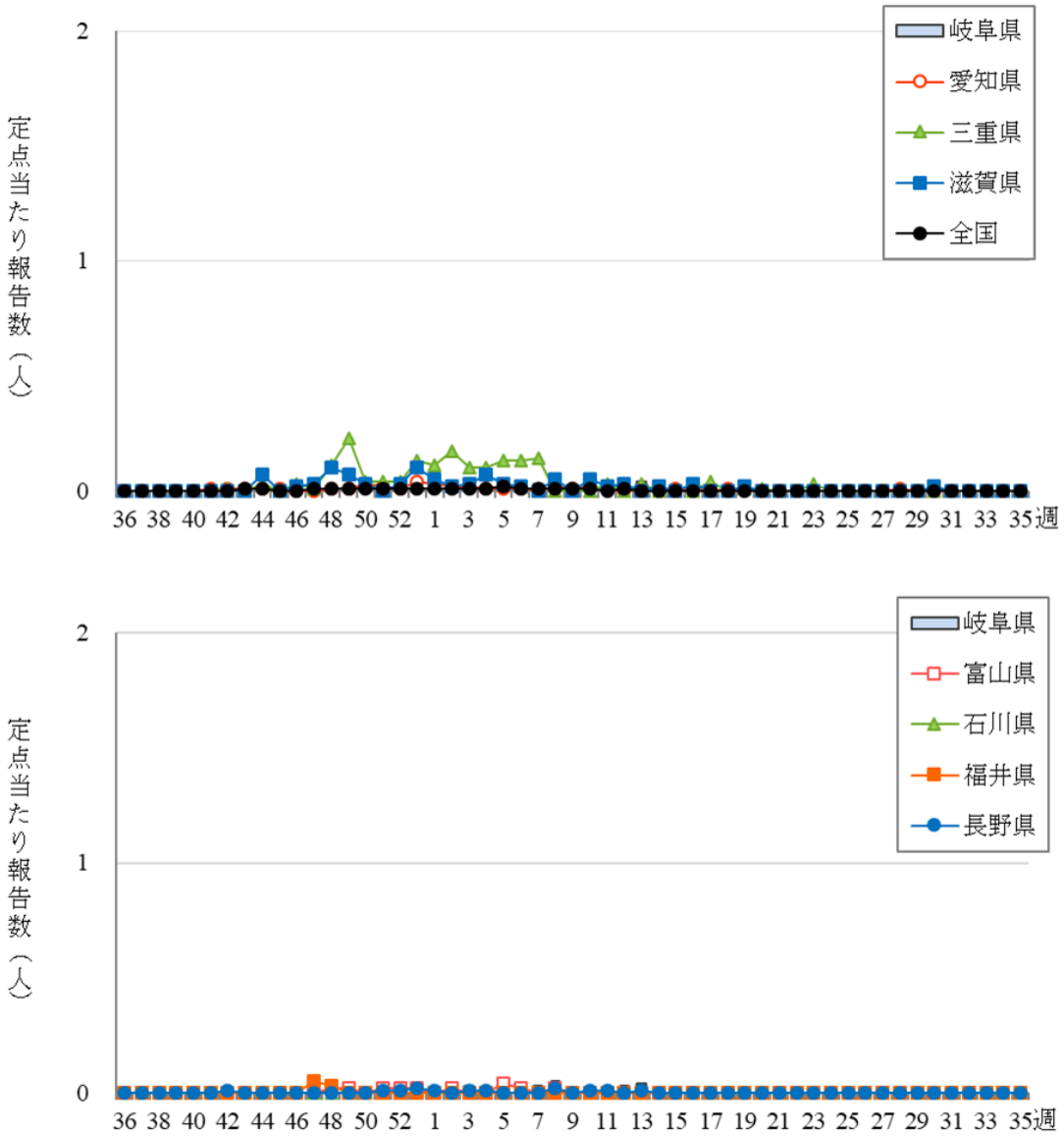

図２　感染症発生動向調査 近隣県との患者報告数週別推移の比較

２　岐阜県リアルタイム感染症サーベイランス

岐阜県リアルタイム感染症サーベイランスシステムは、岐阜県医師会が、岐阜県と岐阜県教育委員会の協力により構築し、2009 年 9 月から運用を開始した岐阜県独自のシステムです。

このシステムでは、県内約 300 か所の定点医療機関（感染症発生動向調査の 87 か所の定点を含む）からのインフルエンザ患者発生情報（迅速診断キットによる型別の情報を含む。）を自動集計し公開しています。

このシステムにより報告された今シーズンのインフルエンザ患者データについて解析しました。

まず岐阜県全体の 1 医療機関当たり週別患者報告数は、感染症発生動向調査のデータと同じく、今シーズン 1 人を超えることはありませんでした（図 3）。圏域別では、西濃圏域における報告数が 2021 年第 1 週まで高い値となっていますが、昨シーズン（2019/20）の西濃圏域での最高値（23.68）と比較すると非常に低い値となりました。

次に今シーズンの患者報告総数は 351 人で、本システムが稼働を開始した 2009/10 シーズン以降で最も少ない数となりました（表 2）。迅速診断キットによる型別の内訳は、A 型が 24 人（6.8%）、B 型が 21 人（6.0%）、その他（症状診断）が 306 人（87.2%）でした。例年患者報告総数の 70%以上を占めていた A 型と B 型の合計は、今シーズン 15%以下となりました。また A 型あるいは B 型の患者報告は、期間を通じて散発しており、まとまった発生報告もみられませんでした（図 4）。

患者報告総数の性別での内訳は、男性が 190 名、女性が 161 名でした（表 3）。年齢階級別では男女とも 80 歳以上の区分が最も多く、男性で 38 名、女性で 47 名となりました。ただしいずれの年齢階級においてもその報告数は直近 5 シーズンで最少でした（図 5）。

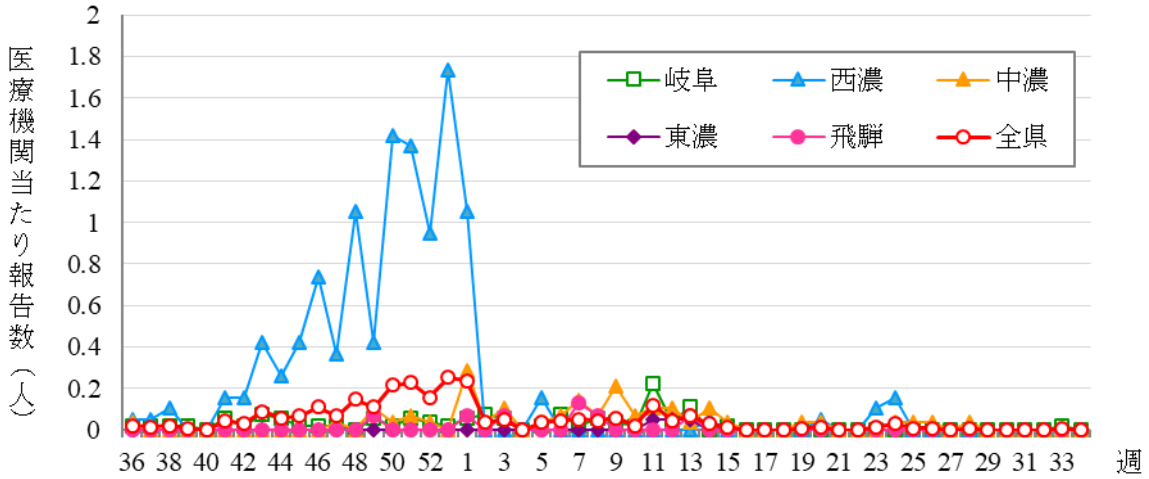

図 3　リアルタイム感染症サーベイランス　圏域別患者報告数週別推移（2020/21 シーズン）

表 2　リアルタイム感染症サーベイランス　A・B 型別患者報告数

シーズン	A型		B型		その他（症状診断）		患者報告総数
2009/10	53,743	(72.9%)	618	(0.8%)	19,380	(26.3%)	73,741
2010/11	22,893	(40.7%)	23,310	(41.5%)	9,982	(17.8%)	56,185
2011/12	41,078	(71.5%)	5,973	(10.4%)	10,428	(18.1%)	57,479
2012/13	29,084	(51.7%)	15,342	(27.3%)	11,872	(21.1%)	56,298
2013/14	31,694	(55.1%)	14,866	(25.8%)	10,951	(19.0%)	57,511
2014/15	39,978	(82.5%)	2,111	(4.4%)	6,363	(13.1%)	48,452
2015/16	25,033	(36.4%)	35,104	(51.0%)	8,651	(12.6%)	68,788
2016/17	47,395	(85.2%)	1,568	(2.8%)	6,646	(12.0%)	55,609
2017/18	21,613	(33.9%)	33,706	(52.8%)	8,479	(13.3%)	63,798
2018/19	50,244	(84.8%)	1,379	(2.3%)	7,607	(12.8%)	59,230
2019/20	25,684	(75.3%)	2,795	(8.2%)	5,635	(16.5%)	34,114
2020/21	**24**	**(6.8%)**	**21**	**(6.0%)**	**306**	**(87.2%)**	**351**

（）内は患者報告総数に占める割合

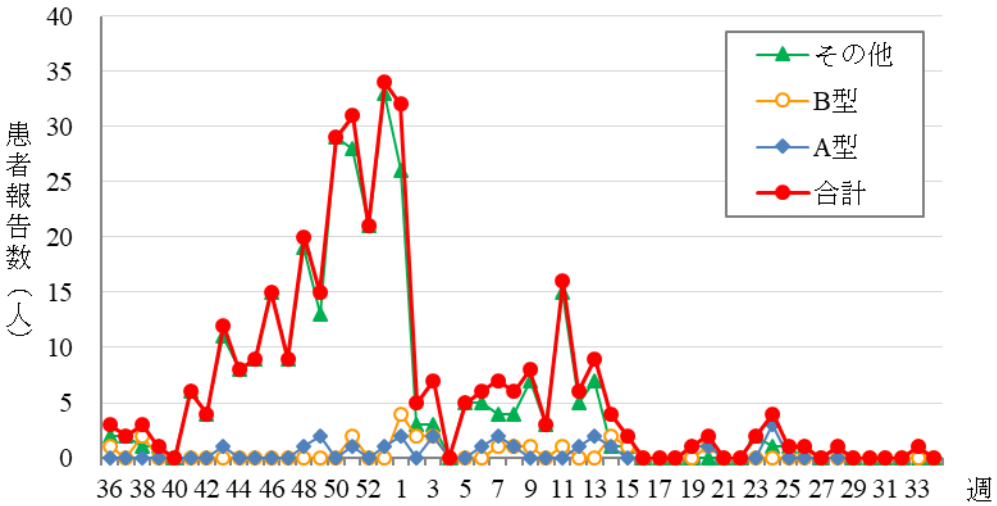

図 4　リアルタイム感染症サーベイランス　A・B 型別患者報告数推移（2020/21 シーズン）

表 3　岐阜県リアルタイム感染症サーベイランス
年齢階級別患者報告数（2020/21 シーズン）

年齢	男	女	計	割合(%)
1歳未満	0	0	0	0.0
1～4歳	11	10	21	6.0
5～9歳	5	6	11	3.1
10～14歳	5	7	12	3.4
15～19歳	11	10	21	6.0
20～29歳	23	21	44	12.5
30～39歳	23	12	35	10.0
40～49歳	14	11	25	7.1
50～59歳	13	7	20	5.7
60～69歳	13	10	23	6.6
70～79歳	34	20	54	15.4
80歳以上	38	47	85	24.2
合計	190	161	351	100.0

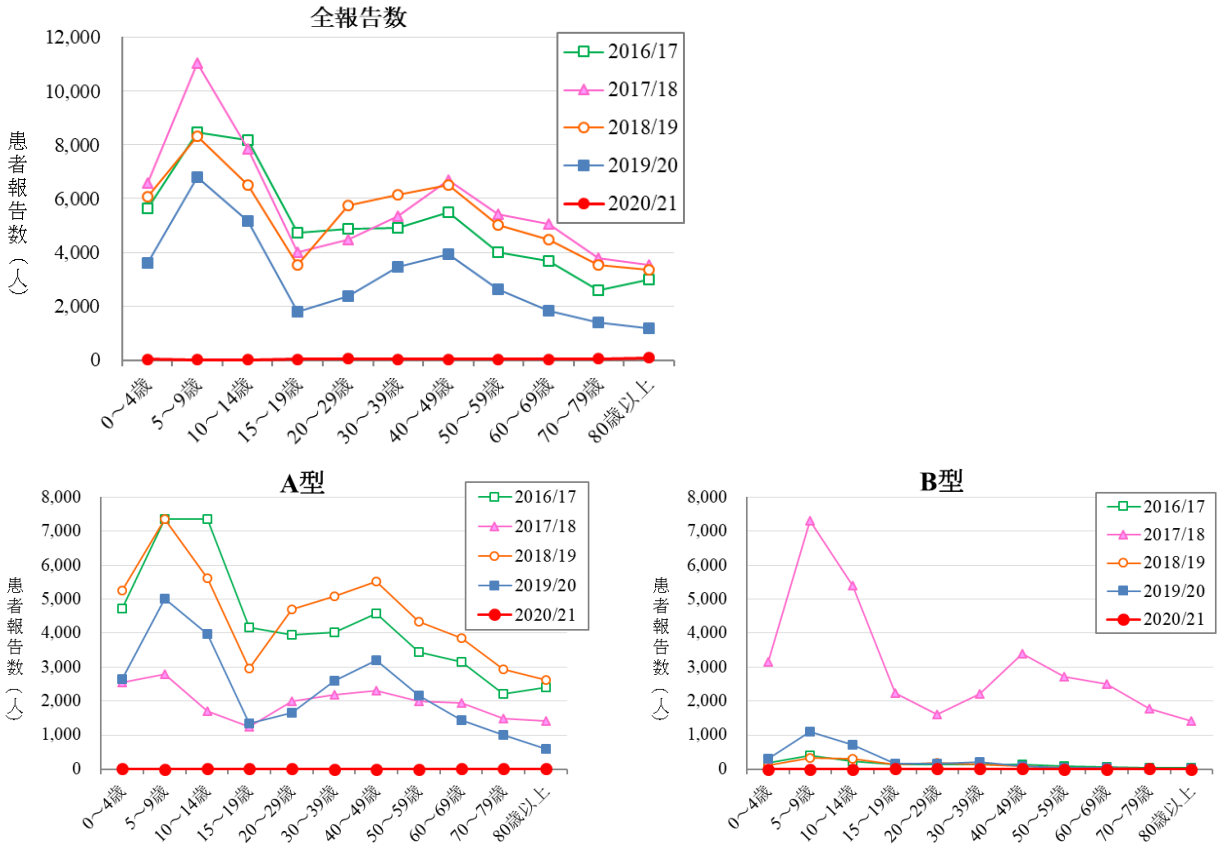

図 5　リアルタイム感染症サーベイランス A・B 型別年齢階級別患者報告数（過去 5 シーズン）

３　学校サーベイランス

岐阜県では、国立感染症研究所が開発した学校欠席者情報収集システム（現在は日本学校保健会が運営）を、2009 年 9 月から県内すべての小・中・高等学校・特別支援学校に導入し、各学校の感染症による欠席状況を把握しています。

このシステムにより今シーズン報告された出席停止者及び学校休業のデータについて解析しました。

今シーズン、県内の小中高校・特別支援学校において、インフルエンザにより出席停止となった児童生徒数は延べ 18 人でした。これは全児童生徒数の 0.1%以下であり、本システムでのデータ収集を開始以降で最も少ない値でした（表 4）。また県内の小中高校・特別支援学校全 659 校のうち、インフルエンザによる学級・学年・学校閉鎖を実施した学校はありませんでした（表 5）。

週別の出席停止者数の推移をみると、今シーズンはまとまった報告数の増加もみられませんでした（図 6）。

表 4　インフルエンザによる出席停止者数（過去 9 シーズン）

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計	全児童生徒数に占める割合
2012/13	22,450	7,300	4,162	314	34,226	14.3%
2013/14	21,738	8,147	2,961	346	33,192	14.0%
2014/15	21,086	7,437	3,084	364	31,971	13.7%
2015/16	31,684	11,216	3,053	435	46,388	20.1%
2016/17	22,197	9,955	6,842	385	39,379	17.2%
2017/18	26,062	10,369	5,869	443	42,743	19.0%
2018/19	21,859	8,147	5,087	331	35,424	15.9%
2019/20	17,328	5,485	2,121	163	25,097	11.5%
2020/21	**8**	**4**	**4**	**2**	**18**	**0.0%**

小中一貫校は小学校、中高一貫校は中学校に計上

表 5　インフルエンザによる学級閉鎖等を行った学校数（過去 9 シーズン）

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
2012/13	224 (59.4%)	78 (39.6%)	15 (18.5%)	2 (10.5%)	319 (47.3%)
2013/14	209 (55.4%)	74 (37.6%)	9 (11.1%)	3 (15.0%)	295 (43.7%)
2014/15	225 (60.0%)	86 (44.1%)	9 (11.1%)	4 (20.0%)	324 (48.3%)
2015/16	300 (80.2%)	120 (61.5%)	5 (6.2%)	6 (30.0%)	431 (64.3%)
2016/17	253 (67.6%)	120 (60.9%)	21 (28.0%)	3 (14.3%)	397 (59.5%)
2017/18	271 (72.7%)	121 (62.4%)	15 (20.0%)	5 (22.7%)	412 (62.0%)
2018/19	229 (61.4%)	92 (47.4%)	18 (24.0%)	2 (8.7%)	341 (51.3%)
2019/20	213 (57.3%)	81 (42.4%)	5 (6.7%)	3 (13.0%)	302 (45.7%)
※2020/21	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**

()内は、全学校数に占める割合

小中一貫校は小学校、中高一貫校は中学校に計上

※2020/2021については聞取りによる実際の数字を記入

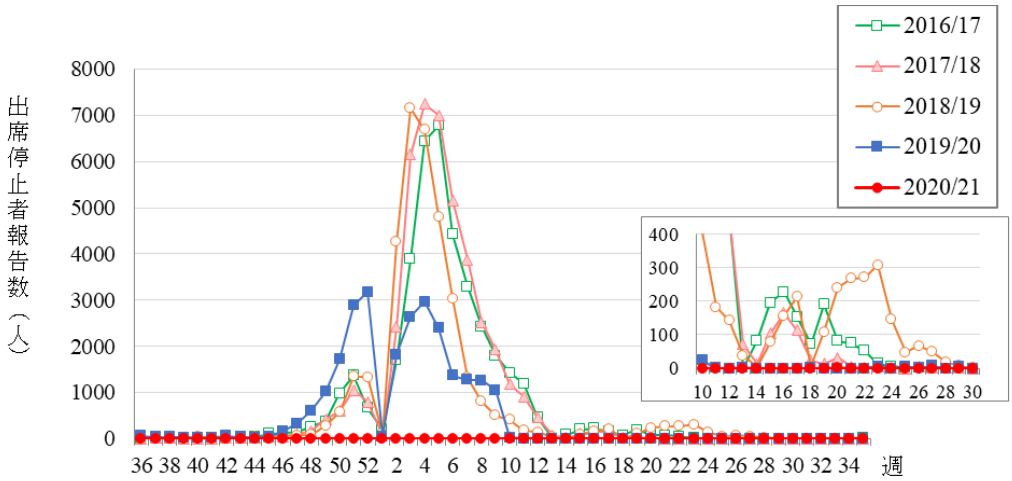

図 6　インフルエンザによる出席停止者数週別推移（県内小中高校・特別支援学校の合計）（過去 5 シーズン）

4　入院サーベイランス

インフルエンザの重症患者の発生動向を把握する目的で、2011/12 シーズンからインフルエンザ入院サーベイランスが開始されました。これは感染症発生動向調査の一環であり、県内 5 か所の医療機関（基幹定点）からインフルエンザによる入院患者数及びその状態が報告されます。

今シーズンの入院患者報告数は 5 人であり、本サーベイランス開始以降で最も少ない報告数でした（表 6）。また過去のデータでは、15 歳未満の小児と 70 歳以上の高齢者の両区分にて患者報告数の多い傾向がみられましたが、今シーズンにおいてその傾向はみられませんでした（図 7）。

表 6　インフルエンザによる入院患者報告数（5 基幹定点からの報告）（過去 10 シーズン）

	患者報告数	患者の状態（再掲、重複を含む）		
		ICU 入室	人工呼吸器の利用	頭部検査等実施※
2011/12	156	4	1	19
2012/13	117	2	1	16
2013/14	169	5	5	17
2014/15	132	2	2	10
2015/16	107	3	1	5
2016/17	117	5	3	16
2017/18	140	2	1	12
2018/19	180	3	1	23
2019/20	162	10	4	21
2020/21	**5**	**0**	**0**	**1**

※頭部CT検査、頭部MRI検査、脳波検査のいずれか実施

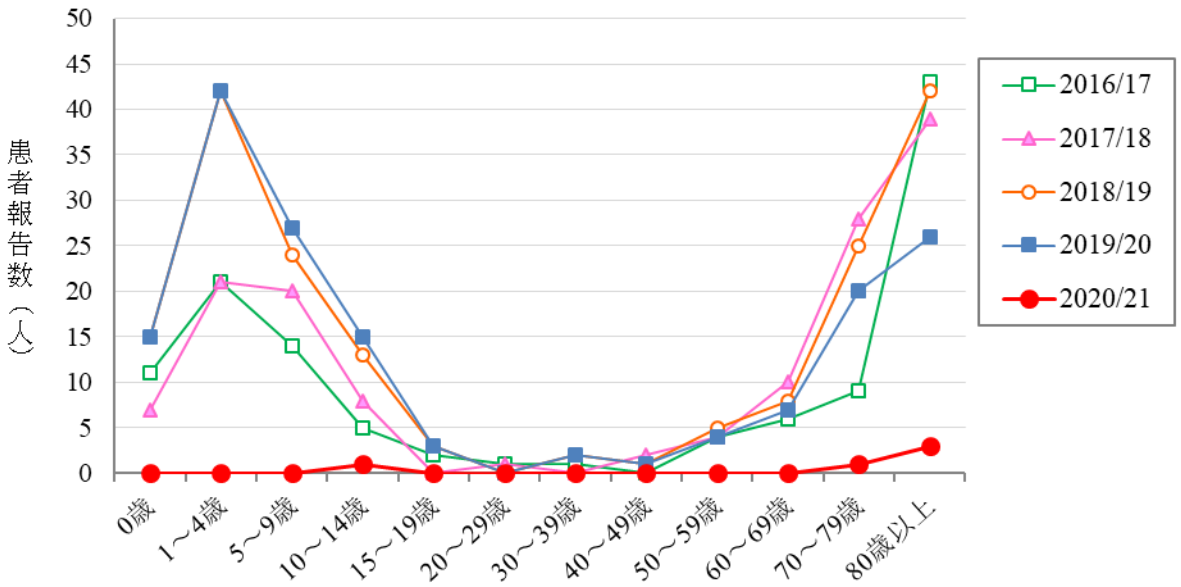

図 7　年齢階級別入院患者報告数（5 基幹定点からの報告）（過去 5 シーズン）

５　ウイルスサーベイランス

保健環境研究所及び岐阜市衛生試験所において、今シーズン、インフルエンザウイルスの検出報告はありませんでした（図 8）。また今シーズンは全国規模においても検出報告数が非常に少なく、インフルエンザ患者 6 例の検体から A 型のみ検出されました。その内訳は AH1pdm09 が 2 例（33.3%）、AH3 が 4 例（66.7%）でした。

※感染症法改正により、2016/17 シーズンから検体採取の頻度が変更されました。

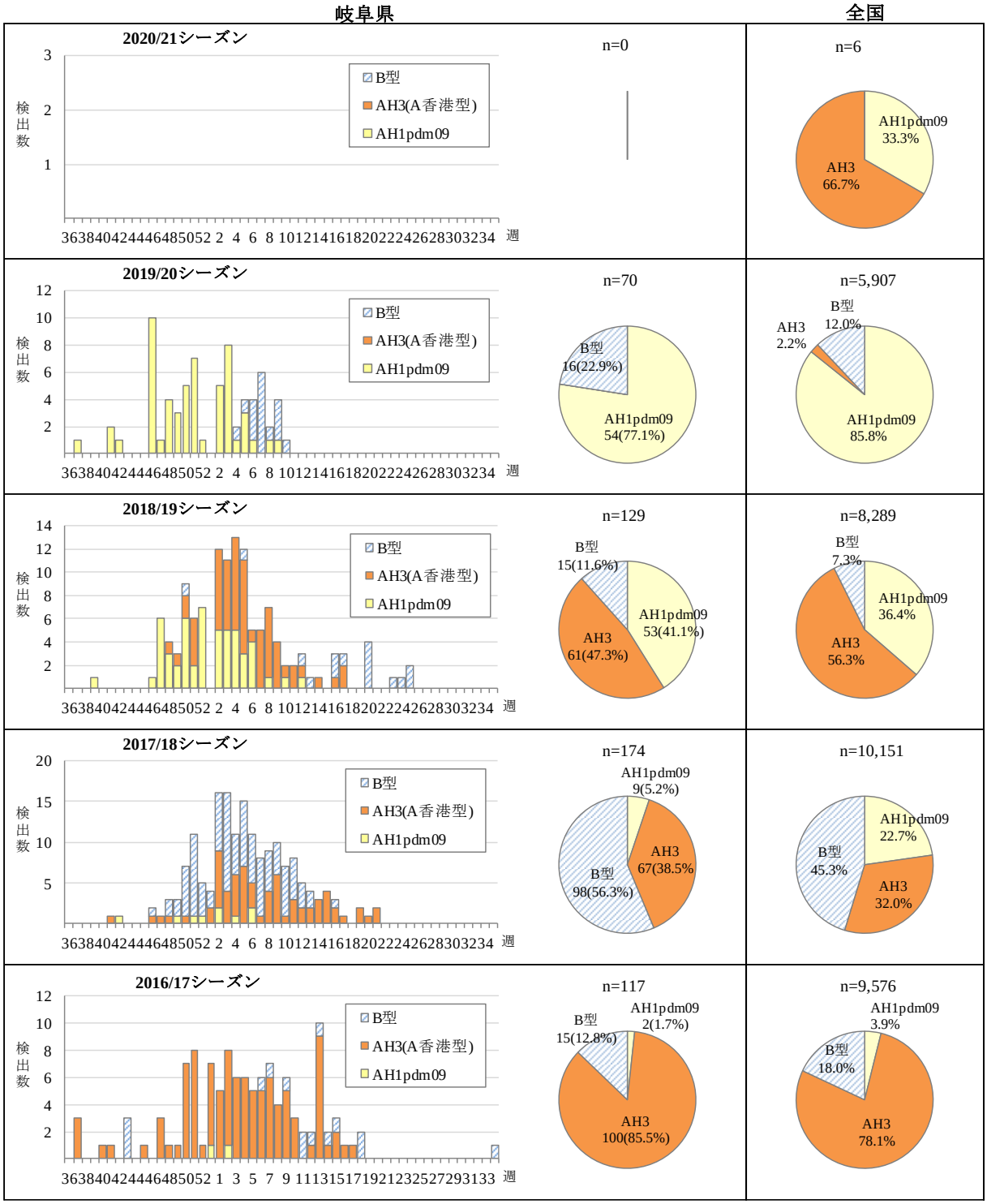

図 8　インフルエンザウイルス検出状況（過去 5 シーズン）

６　各種サーベイランス結果の総括

県全体の患者推移

感染症発生動向調査、リアルタイム感染症サーベイランスともに、患者報告数が定点当たり１人を超えることはなく、実質的に今シーズン、インフルエンザの流行はみられませんでした。この傾向は近隣県及び全国規模においても同様でした。

またその他学校サーベイランス、入院サーベイランス及びウイルスサーベイランスにおいても、今シーズンの報告数はシステム稼働後で最も少ない数となりました。

このようにインフルエンザに関し、今シーズンの発生動向は特異なものとなりました。こうした特異な状況が発生したことについて、いくつかの理由が考えられますが、なかでも新型コロナウイルス感染症への感染予防対策の効果が大きいと考えられています。インフルエンザは、新型コロナウイルス感染症と同様に、感染している人のくしゃみや咳などによる飛沫感染、あるいはウイルスの付いた手指などを介した接触感染によってうつります。そのため密閉・密集・密接（３密）の回避や手洗いの励行などの感染予防対策は、インフルエンザなど、飛沫感染や接触感染する他の感染症にも有効と考えられるからです。